

令和4年度 第4回野洲市社会教育委員会議（概要報告）

会議日時	令和5年3月16日（木曜日） 10時00分～11時45分
会議場所	市役所2階 第5会議室
出席者	社会教育委員 出席：光永委員、駒井委員、鷺田委員、西川委員、高木委員、小澤委員 事務局：西村教育長、馬野教育部長、北脇教育部次長、 井上教育部次長（学校教育課） 西村課長（こども課）、宇都宮図書館長（野洲図書館） 井狩課長、菱沼参事、岡山（生涯学習スポーツ課）
傍聴人	なし

【教育長あいさつ】

とある保護者から相談を受けた中で、担任の先生とうまく合わず、卒業式への参加を渋っている子がいると聞いた。ご両親と学校と話し合いながら、卒業式に出るよう応援していたが、友達に声をかけられたことをきっかけに卒業式に参加することを決断し、無事卒業式の日を迎えることができた。友達関係、仲間関係というのは、この世代の子供たちにとってはものすごく大きい意味があるのだと改めて実感した。

次年度は機構改革もあり、生涯学習スポーツ課改め、生涯学習課として社会教育・青少年教育・地域学校協働活動を支援していくことになる。その点も踏まえて、引き続きよろしくお願ひしたい。

【議事】

（1）第3次野洲市子どもの読書活動推進計画の取組み・中間見直しについて

→別添の進捗管理シートを用いて、関係各課の取組み・見直し内容について報告。

図書館：子どもたちに本を届けることを目的に、図書館BOXを継続して実施しており、好評の声を多くいただいている。そのほか、学校図書館の整備支援についても、公共図書館として可能な範囲で実施していく。

こども課：図書館からの配本サービスによる支援を得ながら、子どもが絵本にたくさん触れる機会を増やしてきた。中学生のボランティアによる読み聞かせが2校増えたという実績からも、こういった取り組みが増えていくように引き続き取り組んでいく。

学校教育課：今年度コロナ対策予算を使って蔵書管理システムを導入した。併せて学校司書の配置についても要望したが、叶わなかった。今後、学校司書がない現状をソフト面でどうカバーしていくのかが課題であり、地域人材にも頼っていくことが見込まれる。

（主な意見）

- 委員 「大人のボランティアがいつまでも主軸ではない」という視点で、ボランティア活動を次の世代へ渡すことを意識しながら活動していくのが大切である。「一度やってみる」のが大切で、行政としては「予算が」となれると思うが、ボランティアの

方は「子どもたちの為に」という思いで活動されているのだから、とにかく一度（様々な取組を）やってみればいいのでは。

- 委員 小学校での読書ボランティアグループで、色々な取組を行ったところ、そのボランティアの姿を見て、子どもたちが校内放送で読み聞かせをするようになった。それをボランティアの方に伝えたらすごく喜ばれて、「じゃあもっとやろう」ってなったのを見て、相乗効果が得られるような「戦略」も大切だと実感した。
- 委員 中学生が小学生へ、小学生が幼稚園児に読み聞かせを、といった連続性のある流れが大切だと思う。読む子・読まない子の二極化の課題解決に、ボランティアさんを通じた本を読むきっかけづくりというのは、本当に大切なことだと思う。
- 委員 孫との会話の中で、図書館を「えほん屋さん」と身近なものとしてとらえている場面があった。意図はともかく子どもに図書を提供する、という部分がかかり重要。
- 委員 芦屋市教育委員会が「ブックワーム芦屋っ子 子どもに読ませたい図書リスト 400選」といった選書リストをこどもたちに配布している。様々なジャンルの本が掲載されていて、自分の好きな作家だけでなく、色々なジャンルの本を読むきっかけとして非常に良い取り組みだと思っている。フェイクニュースが氾濫する現代で、本を読み正しい情報を見抜く力を身に着けるのが大切。

(2) 令和5年度野洲市社会教育関係団体補助金の交付について

(主な意見)

- 委員 実際、補助金を受けているから活動を続けられている団体も多いことから、今後でも継続して事業内容を申請時に精査しながら交付を続けていくのが大事だと思う。
- 委員 社会に貢献していく人を創っていく団体が社会教育関係団体だと考えている。
今後いろんな団体が登場してきても、自助・共助・公助といった、公助だけでなく自分たちでやっていく、という意識を育てる一定の仕組みは必要だと思う。
- 委員 各団体の活動を通じて、市民にとってどう役立ったのか、どのような効果があったかを検証する必要がある。目的を焦点化し、その達成具合に応じて補助金額を設定してもいいのではないか。
- 委員 今後、補助団体の構成員の中に、「社会教育士を一人つくること」など条件を加えることも、組織のありかたを考えるうえで効果的ではないか。「高齢化で会員数が減っている」などの課題の解決を目指して、組織機能の改善についての研修会に参加してもらいなどの工夫は必要。行政内部でも、「予算を持っているところが全部の責任を持つ」といったような状況を改善し、全庁的なネットワークをもって、支えていく努力をお願いしたい。

◎その他連絡事項

【報告】 令和5年度近畿地区社会教育研究大会（滋賀大会）について
→ 県理事会より、開催会場が立命館大学びわこ草津キャンパスで確定したことについて報告があった。また、当日は分科会運営（司会）について、社会教育委員にも立候補があれば協力いただきたい旨について伝達した。